

花ほころぶその玉響に銀河は生まれ書かれた手紙よむひとを待つ
／古井 肇

名前を呼ぶことは手紙だと知る一輪の薔薇想う星の時間を教えて
／もりまりこ

バラの嘘やさしき気づけず旅立つ王子 薔薇星雲にバラは咲かない
／古井 肇

薔薇星雲にじんだ輪郭を想う星の王子さまの夜があふれる
／もりまりこ

薔薇星雲のにじんだ輪郭を想う星の王子さまの夜があふれる
／古井 肇

花の名に来し方を想う孤高の香りくゆらせながら銀河を舞う
／もりまりこ

林檎なら二度とふたたび口にせず檸檬はコトコト煮詰めてジャムに
／青海波

花となるその後きっと実が生るわ檸檬か林檎か禁断の果実
／古井 肇

林檎なら二度とふたたび口にせず檸檬はコトコト煮詰めてジャムに
／青海波

この次は誰も傷つけないように脳と心を持たぬ海月に――。ひたあおにたゆたう海月ありふれた残留思念を絢い交ぜにする
／Noctiluca

罪の名をいま負う花も未来では真理と呼ばれ咲き誇らん――。罪無くも罰うけざりし不実の花よ推定無罪の原則いかに
／葉月

その罪は葉となり根となり種子となり次にどんな花を咲かせるの――。どの人も罪を犯さずには生きられぬことを知るあなたは生きる
／古井 肇

つみしとて請ふばかりなる言の葉のあと結ばんや不実の花よ――。請ひ乞ふて恋しきひとを求むれど結ばれるはずなきいたづらばなど
／鯖虎

生きることそれさえ罪というならば花を手折りて君を飾ろう――。手折られた花は花瓶に生けられて生首だらけのショーラインドウ
／アリタ別館

例えさああなたの花を愛したら同罪として同じ鉢とか?――。同じ場所で生きることができるのならなんて理想の罪なのでしょう
／麻数

疾しさはいざれ瞼を膨らませ裂かれざるを得ぬ贖罪、美しき
／tanaka azusa

眼裏に疾しさ隠し移ろいてすこしづつ月は満ちたりつつ闇に
／古井 肇

朝未き月の刃めがけ白道に身を投げ出して潤む眉月
／古井 肇

tanaka azusa (@azplanetaz)
もりまりこ (@zeronokamides)
綿鍋和智子 (@MeFuchsia)
Noctiluca (@2Noctiluca2)
アリタ別館 (@irusousaku)
青海波 (@iFb77WoIcv87418)
鯖虎 (@misosarasenryu)
麻数 (@umberhemp)
葉月 (@hazuki0051)
古井 肇 (@saku_furui)

返歌プロジェクト2025（返歌ください2025より） 編集：古井 肇 2025年11月22日発行